

Otaru
Dental
Hygienist
School

2023年度 ~ 授業計画

Syllabus

1年生

小樽歯科衛生士専門学校

授 業 科 目 名	生物	実務経験
担 当 教 員 名	安田 元昭	歯科医師歴 37年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

生物学の知識は他の基礎科目を理解するうえで必須の知識である。本講義では、高校卒業レベルの生物学の内容を理解習得することを目標とする。特に細胞の基本構造および転写・翻訳などの分子生物学的内容を重視していく。

【授業の進め方】

毎回、講義終了後に演習問題に取り組み知識の定着を確認する。

【使用教本・教材】

プリント および 歯科衛生学シリーズ 生物学

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

講義は各授業で配布するプリントやスライドに即して行い、試験範囲もこれらの中から出題します。歯科衛生士教本は副読本として使用する程度なので授業の内容をしっかりとノートにとることを心がけて下さい。

授業科目名	化学	実務経験
担当教員名	山口 一郎	歯科医師歴 31年
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 30時間 (15回)

【授業の目的・到達目標】

《目的》

歯科衛生士は歯科医療の現場で種々の薬物や歯科材料などを取り扱うことから、物質の性質、構造、変化に関する化学の基礎知識が不可欠である。授業では、広い化学の領域のうちでも歯科医学に関連した項目を中心に学び、日常の歯科臨床において取り扱う物質に関する基礎知識を身につけることを目的とする。

《目標》

1. 物質の基本的な構造について説明できる。
2. 気体と液体の種類とそれらの基本的な性質について説明できる。
3. 化学反応の原理について説明できる。
4. 有機化合物の基本的な構造と性質について説明できる。
5. 生体を構成する物質について説明できる。

【授業の進め方】

毎回の小テストを行います。

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 化学

【評価方法】

定期試験の得点を8割、小テストを2割とし、合計で6割以上を合格とする。
点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

教科書を事前に読んでくること。

授 業 科 目 名	国語		
担 当 教 員 名	菊地 美千	高等学校教諭歴	34年
開 講 時 期	1年生	前期	
授業形態・単位数・時間	講義	1単位	16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

1. 専門学校の学生として学習意欲の向上と授業の成果を挙げるため、その基礎学力としての言語活動の充実を目指す。
2. 国語教育の学習を通して、人間性豊かな専門職としての自覚を培う為、思考力。判断力。表現力の充実をめざす。

【授業の進め方】

語彙、文法及び文章の倫理構造を柱に据え講義と演習の授業展開を進める実践的な問題解決型の形態とする。

【使用教本・教材】

国語科としての基礎学習の確実な定着を目指した教材を中心に据えた自作編集教材の作成とする。

【評価方法】

授業への関心、意欲を重視するとともに、小単元による試験・作品の提出及び総括試験を持って点数による絶対的評価する。

【授業心得】

授業のめあてを明確にし課題意識を高めるとともに個人差に応じた指導を重視し、個の学力の定着を目指す。

授 業 科 目 名	心理学
担 当 教 員 名	槇 洋一 先生 心理学修士歴 25年
開 講 時 期	1年生 前期
授業形態・単位数・時間	講義 2単位 30時間（15回）

【授業の目的・目標】

本科目では、心理学の基礎的な内容を幅広く学ぶことを目的とする。具体的には、心理学の主要なトピックである知覚、記憶、動機づけ、感情、パーソナリティ、対人関係、ストレスなどの基礎的内容を紹介する。講義では、トピックに関する実験や調査のデモンストレーションを可能な限り実施し、受講生が体験的に理解できるようにするので、積極的に参加することを望む。これに加えて、医療場面に役立つと思われる心理学の応用的内容についても紹介する。

到達目標

1. 心理学の基礎的内容に関する知識を習得する。
2. 心理学の基礎的内容を発展的に捉え、日常場面(特に医療場面)での応用可能性を具体的に想像することができる。

【授業の進め方】

授業前: 毎授業プリントを配布するので、A4のファイルを用意してください(ノートはいりません)。予習は必要ありません。

授業中: 配布するプリントに指示する内容等を書き込んでいってください。講義内容に関するデモンストレーションも行います。遅刻しないようにしてください。

授業後: 授業内容に関する穴埋め問題を出題するので、復習してください。(期末テストは、この問題から出題されます)

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 心理学
プリント資料

【評価方法】

期末テスト: 全15回の授業内容に関するテスト ……70%
出席: 授業の感想、質問を記述する(毎授業) ……30% を総合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授業を“勉強”と捉えるのではなく、その内容を自分ならどのように活かすのかを考えると、いつの間にか覚えています。授業を楽しもうという気持ちで臨んでください。

授業科目名	解剖学・組織発生学	実務経験
担当教員名	入江 史子	歯科医師歴 32年
開講時期	1年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 30時間（15回）

【授業の目的・到達目標】

- ・人体の構造や名称を理解し、さらに頭頸部に関わる骨・筋・脈管・神経の器官系に精通すること。
- ・人体の構造は肉眼のみならず、顕微解剖学的構造も知る必要がある。
特に上皮・支持組織の構造を理解すること。
- ・人体の組織や器官は1つの受精卵から分化して形成される。
細胞の分化と成熟過程、分化由来を理解すること。

【授業の進め方】

教科書を原則に、パワーポイントを用いたスライドと板書を学生にはノートに記入してもらう。
毎回の講義終了時に復習のために課題を出し、次回の講義時に回収する。

【使用教本・教材】

歯科衛生士学シリーズ 『解剖学・組織発生学・生理学』

【評価方法】

前期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授業後の復習を心がけること

授 業 科 目 名	生理学	実務経験
担 当 教 員 名	山口 一郎	歯科医師歴 31年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 30時間（15回）

【授業の目的・目標】

医学を学ぶに際し、最初で基本となるのが、解剖学と生理学である。解剖学がヒトの基本構造を学ぶのに対し、生理学は生きていく仕組みを学ぶ学問である。生理学において、ヒトの体の仕組みや働きを明らかにするのである。緊張するとヒトはなぜ喉が渇くのか？人類のうち9割ものヒトがなぜ右利きなのか？日常疑問に思っていることを講義に交え、難しいといわれる生理学を解りやすく講義を進めていきたいと思っている。

【授業の進め方】

教本と配布資料を用いて講義を進める。
必ず板書をするので、ノートを取ることを必須とする。

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 「解剖学・組織発生学・生理学」

【評価方法】

家庭学習用プリントの提出、定期試験の点数による絶対評価

【授業心得】

授 業 科 目 名	生化学	実務経験
担 当 教 員 名	藤澤 隆一	歯科医師歴 43年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	2単位 30時間 (15回)

【授業の目的・到達目標】

糖質、脂質、タンパク質という三大栄養素を中心に、それらがヒトの体内でどのように代謝されているかを理解する。

口腔生化学の特に、歯を中心とする口腔組織の構成成分、歯の石灰化、唾液の化学組成、歯垢を中心とする歯の堆積物、う蝕と歯周疾患の免疫学について理解する。

【授業の進め方】

教本を基本としての板書、その他プリント・模型などの資料で行う

【使用教本・教材】

医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 栄養と代謝

【評価方法】

定期試験、授業態度の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

年間授業計画

科目名 生化学

回数	履修主題	履修内容
1	細胞の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細胞の構造を理解する ・ 細胞小器官の働きがわかる
2	生体における水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酸と生成する陰イオンがわかる
3	生体構成成分と栄養素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を構成する成分を栄養素別に分類できる
4	生体における化学反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体における消化・吸収・エネルギー代謝がわかる ・ 生体における恒常性の維持がわかる
5	糖の代謝	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖質の代謝がわかる
6	脂質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脂質の代謝がわかる
7	たんぱく質の代謝	<ul style="list-style-type: none"> ・ たんぱく質の加水分解を理解する ・ たんぱく質の生合成がわかる
8	歯・口の生化学 結合組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線維性たんぱく質の種類がわかる ・ コラーゲン、エラスチンの違いがわかる
9	歯・口の生化学 歯の構成成分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨・歯の構成成分がわかる
10	歯・口の生化学 石灰化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯と骨の石灰化の特徴を理解する
11	歯・口の生化学 石灰化	<ul style="list-style-type: none"> ・ カルシウムとリン酸代謝の調整機構がわかる ・ 脱灰がわかる
12	歯・口の生化学 唾液	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唾液の生化学を理解する
13	歯・口の生化学 プラーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラークの組成、形成、代謝を理解する ・ ペリクルの組成、形成、機能を理解する
14	歯・口の生化学 歯石	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯石の組成と形成を理解する
15	歯・口の生化学 口腔疾患と自然免疫系 口腔疾患と獲得免疫系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯周組織の自然・獲得免疫を理解する

授 業 科 目 名	歯牙解剖学	実務経験
担 当 教 員 名	山岡 孝義	歯科医師歴 22年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <p>《目的》</p> <p>歯が正常に機能するには上下顎の歯が正しく並び、咬みあう必要がある。歯の機能を考える際には、個々の歯の形態や、歯列の形態が非常に大きく影響する。これらに関して理解を深めることは、歯科臨床において必要不可欠である。歯牙解剖学では、歯の形態や、生物学的な意義について学ぶ。</p> <p>《目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の生物学的な意義、形態について理解する。 2. 歯の名称や記号を理解する。 3. 歯種について区別がつけられるようになる。 <p>【授業の進め方】</p> <p>毎回小テストを行い、理解度を確認します。</p> <p>【使用教本・教材】</p> <p>歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学</p> <p>【評価方法】</p> <p>定期試験の得点を8割、小テストを2割とし、合計で6割以上を合格とした点数による絶対的評価とする。</p> <p>【授業心得】</p> <p>教科書を事前に読んでくること。</p>		

授 業 科 目 名	解剖学実習	実務経験
担 当 教 員 名	太田 桂吾	歯科技工士歴 42年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位 20時間（10回）

【授業の目的・到達目標】

- 1) 個々の歯牙形態について、同一歯種の上・下顎の形態差、同一顎の歯種内の形態差、同一歯の近・遠心側及び、唇(頬)側・舌(口蓋)側の形態差について理解させる。
- 2) 形態を含めた各歯冠の名称を正確に理解させる。
- 3) 歯型彫刻を通して立体的な歯牙の特徴を捉えさせる。

【授業の進め方】

- 1) スケッチ・・・個々の歯牙を切縁(咬合面)、唇(頬)側、舌(口蓋)側、近・遠心側の5面からその特徴を捉えたスケッチを行なうと共に各部の名称を記入させる。
- 2) 石膏彫刻・・・歯牙の特徴を捉えると共にデザインナイフ等で石膏を削合することで指先の細かな動作と注意力を身につけさせる。

【使用教本・教材】

歯科衛生士学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
プリント

【評価方法】

- 1) スケッチ・・・各部の名称が正しく記入されているか。
 - 2) 石膏彫刻・・・歯牙の特徴を捉えているか。
 - 3) 石膏柱・・・気泡がなく、なめらかに作成されているか。
- (1)から(3)を統合し、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

歯牙の特徴及び各部の名称(咬頭、隆線等)を覚えておくこと。

授業科目名	解剖学実習	実務経験
担当教員名	笹山 美香	歯科衛生士歴 27年
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 27年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 49年
	中村 里沙	歯科衛生士歴 24年
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	10時間（5回）
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <p>歯牙彫刻作成のための前準備として、石膏柱を作製する 石膏の取扱いを十分に学習し、的確な混水比・練和・注入方を理解する</p>		
<p>【授業の進め方】</p> <p>石膏柱の作成実習</p>		
<p>【使用教本・教材】</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科材料</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>気泡がなく表面が滑らかな石膏柱の作成。 解剖学実習(スケッチ・彫刻)と総合した定期試験の点数による絶対的評価とする。</p>		
<p>【授業心得】</p>		

授 業 科 目 名	微生物学・口腔微生物学	実務経験
担 当 教 員 名	柴田 健一郎	歯学博士歴 35年
開 講 時 期	1年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）
<p>【授業の目的・到達目標】 歯科衛生士業務における予防処置、保健指導をおこなうにあたり、それに関連した病原菌やその性状、発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>【授業の進め方】 教本、パワーポイント、プリント等を使用して授業を行う</p> <p>【使用教本・教材】 歯科衛生学シリーズ 微生物学</p> <p>【評価方法】 定期試験、出席状況等を総合した点数による絶対的評価とする。</p> <p>【授業心得】 予習、復習は必ずおこなう 授業には積極的に参加し、わからないことがあればそのつど質問する</p>		

授 業 科 目 名	病理学・口腔病理学	実務経験
担 当 教 員 名	上 浦 庸 司	歯科医師歴 29年
開 講 時 期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

病気の原因、経過、転帰について学び、歯科衛生士として患者さんとう蝕・歯周病を主とする口腔内の各種疾患について十分説明できるようになってもらう。
口腔病理を理解するための基礎的な知識として病理概説を理解する。(特に炎症)

【授業の進め方】

基礎的な内容についても、臨床と結びつけて興味を持って学んでもらう。

【使用教本・教材】

教科書: 歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学
その他: 教科書に即した各種スライド(アニメーションやムービー)

【評価方法】

毎回の小テスト、定期試験、授業中の解答を総合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

教員として真剣に授業を聞いてもらように最大限工夫をするが、生徒も十分な準備(復習、前日の睡眠)のもと、授業に臨んでいただきたい。

授業科目名	薬理学・歯科薬理学	実務経験
担当教員名	飯村 忠浩	歯科医師歴 32年
開講時期	1年生	前・後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

授業の目標:

歯科衛生士は日常の臨床の場で種々の薬物を取り扱う。それらの薬物を患者に対して有効にかつ安全に、また、衛生士自身にとっても安全に使用するためには、薬物に関して十分な知識を持ち、正しい取り扱い方を身につける必要がある。また、全身疾患を有し他の科で種々の薬物を投与されている患者の来院も多いことから、歯科以外で使用される薬物についても基本的な知識を持つ必要がある。このような目的で薬理学を学ぶ。使用する教科書のI章:総論には、薬理学の中でも是非知っておきたい必須事項が多く含まれているため、1年生では総論に多くの時間をかけて学ぶ。

到達目標:

1. 薬物の分類と薬理作用、副作用について理解し説明できる。
2. 薬物の取り扱い方と法令について理解し説明できる。
3. 神経系の全身疾患において投与される薬物について説明できる。

【授業の進め方】

記憶すべき語句を空欄の括弧として教科書から重要な箇所を抜粋したプリントと、教科書の各章ごとに歯科衛生士国家試験の既出問題を分類したプリントを配布する。授業は、プリントに抜粋した部分を中心にパワーポイントで示しながら説明して進める。プリントの空欄括弧内に入るべき語句はパワーポイントでは赤字で示されるので、授業を聞きながらプリントの括弧を埋めていく。衛生士国家試験の既出問題は、直接関連する授業時間中に考えさせ、解答と解説を行う。

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学

【評価方法】

出席日数を満たし定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

薬理学はカタカナの用語が多く、難しく感じるかもしれないが、ある程度学習が進むと必要とされる用語の数は限られていることが理解できると思う。毎回の授業を大切に集中して受けること。また、国家試験の出題問題の範囲もある程度限られているので、既出問題の解答と解説を大事にすること。

授 業 科 目 名	歯科衛生士概論	実務経験
担 当 教 員 名	加藤 友一	歯科医師歴 36年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・目標】

近年日本国民のライフステージを通じた歯や口腔の健康づくりの重要性が叫ばれるようになり、歯科医療現場のみならず、介護の場においても歯科衛生士の活躍がますます求められるようになってきている。

そうした社会的要請に応えるべく、関連する法律を学び、歯科衛生業務に対する考え方や行動の仕方を理解するとともに、科学的な裏付けをもって仕事をするこの意味を考える。

【授業の進め方】

教本を中心に！

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論

【評価方法】

・テスト
 ・ノートの整理状況
 ・出席状況

} を総合した点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

私語を慎しみ、ノートをとる。

授業科目名	歯科臨床概論	実務経験
担当教員名	山本 栄治	歯科医師歴 22年
開講時期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）
<p>【授業の目的・到達目標】 歯科の臨床に初めて触れる学生が、歯科衛生士に必要な臨床に関する基礎知識を習得し、各論につながる内容に幅広く触れることを目的とする。医療用語・専門用語ならびに歯科疾患や治療に関する基礎知識を習得し、臨床各分野や予防処置、保健指導、診療補助の理解の土台となる知識を獲得することを目標とする。</p> <p>【授業の進め方】 一部スライドを交え講義形式で進行する。</p> <p>【使用教本・教材】 配布資料</p> <p>【評価方法】 筆記試験</p> <p>【授業心得】</p>		

授 業 科 目 名	歯科保存学(保存修復学)	実務経験
担 当 教 員 名	夏井 孝児	歯科医師歴 11年
開 講 時 期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	10時間 (5回)
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <p>保存修復に必要な知識を習得し、疾患の理解、診断に至るステップ、修復方法ならびにその使用器具を理解し、臨床に必要な知識を獲得することを目標とする。</p>		
<p>【授業の進め方】</p> <p>一部スライドを交え講義形式で進行する。</p>		
<p>【使用教本・教材】</p> <p>歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 Handouts(配布資料)</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p>		
<p>【授業心得】</p>		

授 業 科 目 名	歯科保存学(歯周療法学)	実務経験
担 当 教 員 名	姫野 宏	歯科医師歴 53年
開 講 時 期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 24時間(12回)
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <p>・歯周疾患は、齲蝕に並び口腔領域における2大疾患とされており、歯を失う原因の一つとされている。</p> <p>現在、超高齢社会をたどる日本国内において、8020運動。80歳で20本の歯を残そうという運動に先駆け、歯科医師のもと、歯科衛生士が行う予防処置、歯周病治療はとても重要な役割を果たす。</p> <p>その中で、歯周病における知識・技術の習得を目指すとともに、一人でも多くの歯周病認定歯科衛生士として活躍できるような歯科衛生士を目指し養成していくことを目標とする。</p>		
<p>【授業の進め方】</p> <p>・講義を中心に授業を展開。</p> <p>・技術の習得面においては、演習を挟みスケーラーの構成やシャープニングの実習なども含めて行う。</p>		
<p>【使用教本・教材】</p> <p>・新歯科衛生学シリーズ 歯周病学</p> <p>・スケーラーセット、シャープニング器材など</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>・日常点(授業態度など)</p> <p>・小テスト(確認テスト)</p> <p>・レポート作成</p> <p>・定期試験</p> <p>} を総合した、点数による絶対的評価とする。</p>		
<p>【授業心得】</p> <p>・臨床的な内容も含めて行うので、板書をしっかりと取り、重要な説明はそのつどメモもしくは、ノートをしっかりとりまとめること。</p>		

授 業 科 目 名	歯科補綴学（総論）	実務経験
担 当 教 員 名	平井 晋	歯科医師歴 31年
開 講 時 期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

- ・歯の実質欠損や喪失により生じた形態や機能の低下を補綴物で補い、回復するのみではなく、予防するという重要性を理解する。
- ・歯の欠損による障害は身体的障害だけではなく、心理的な障害にも関係があることを理解する。
- ・顎関節の構造と機能を理解する

【授業の進め方】

教本を使う授業と実際の補綴物を見てもらって進める授業を実施

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

授 業 科 目 名	口腔外科学（総論）	実務経験
担 当 教 員 名	山本 栄治	歯科医師歴 22年
開 講 時 期	1年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

1. 人体の基本的特徴を理解する。
2. 歯科の特殊性を理解する。
3. 硬組織と軟組織の違いを押さえる
4. 咬合の基本を理解する
5. 外科の基本を理解する
6. 口腔外科とは何かを理解する

【授業の進め方】

講義中心、時々スライドを交えて

【使用教本・教材】

教科書中心に 歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」

【評価方法】

期末試験 + 平常点を総合した点数による絶対的評価とする

【授業心得】

人体に興味を持つこと
常に自他の健康増進について考える事

授 業 科 目 名	小児歯科学	実務経験
担 当 教 員 名	坂口 友朗	歯科医師歴 29年
開 講 時 期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間 (8回)

【授業の目的・到達目標】

- ・小児歯科では、治療の対象が成長を続ける小児であり、治療においては予防処置～治療～メンテナンスの重要性までと極めて広範囲にわたる。
その中で、小児患者に対する対応や保護者に対する対応(協力)においても治療を進めていくには不可欠なものである。
小児歯科学では、乳歯・永久歯の特徴を理解するとともに、成長(発育)・状態・精神面を考え対応等ができるような知識の向上を目標とする

【授業の進め方】

- ・実際の小児に対する歯科治療のスライドを用い、講義中心に行う。
また、将来、母親となった時に必要な乳幼児との接し方や育て方なども含めて題材に取り入れ授業を展開する

【使用教本・教材】

- ・歯科衛生学シリーズ 小児歯科学
- ・臨床における小児患者のスライドやグラフ・表など

【評価方法】

- ・日常点(授業態度など)、定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

- ・予習、復習をかならず行うこと。
- ・授業内の私語、居眠り等は慎むこと。

授 業 科 目 名	歯科予防処置法	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 27年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 27年
	中村 里沙	歯科衛生士歴 24年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 49年
開 講 時 期	1年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	5単位 150時間
<p>【授業の目的・到達目標】</p> <p>前期： 歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔の保健管理を目的とした予防的歯石除去を行うための知識・技術・態度を習得する。</p> <p>後期： 予防的歯石除去の知識・技術及び態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実を図る</p> <p>【授業の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・実習 <p>【使用教本・教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教本 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生士のための齶蝕予防法 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・技術試験 ・小テスト ・レポート課題 ・授業・実習態度 <p style="margin-left: 150px;">} 総合した、点数による絶対的評価とする。</p> <p>【授業心得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習は常に心掛ける ・歯科予防処置は歯科衛生士の独占業務である。その為に必要な技術の習得は日々の訓練によって獲得できる！訓練を怠らないように！ ・課題においては、提出期限を厳守とする 		

授 業 科 目 名	う蝕予防処置	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 27年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 27年
	中村 里沙	歯科衛生士歴 24年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 49年
開 講 時 期	1年生	後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	1単位 30時間

【授業の目的・到達目標】

目的： 歯科衛生士として、齲蝕予防処置を行うための知識・技術を身につける。

【授業の進め方】

- ・講義
- ・実習

【使用教本・教材】

- ・教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論
歯科衛生士のための齲蝕予防処置法

【評価方法】

- ・定期試験
 - ・技術試験
 - ・小テスト
 - ・レポート課題
 - ・授業・実習態度
- の点数による絶対的評価

【授業心得】

- ・予習・復習は常に心掛ける
- ・課題においては、提出期限を厳守とする
- ・う蝕予防を行う、公衆衛生活動に積極的に参加する

授 業 科 目 名	歯科保健指導法	実務経験
担 当 教 員 名	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 27年
	笹山 美香	歯科衛生士歴 27年
	中村 里沙	歯科衛生士歴 24年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 49年
開 講 時 期	1年生	前期 ・ 後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	3単位 90時間

【授業の目的・到達目標】

授業目標

- 前期 歯科保健指導とは対象者の生活行動を歯科保健行動に変容させることを目的とする。その目的のため、各分野(清掃法・食事指導など)の指導に必要な幅広い知識と基本的な技術を理解、習得する。
- 後期 対象者別、疾病別の指導法を理解し、的確に助言・援助できるよう学習する。小集団指導に対する伝達技術・媒体の作成法を習得し、症例別に立案・作成し発表できることを目標とする。

【授業の進め方】

講義、演習、実習

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ	歯科予防処置論・歯科保健指導論
歯科衛生学シリーズ	保健情報統計学
歯科衛生学シリーズ	栄養と代謝
その他プリント	

【評価方法】

- ・授業態度
 - ・課題、レポート
 - ・定期試験
- 以上を総合し、点数による絶対的評価とする

【授業心得】

- ・予習復習は常に行うようにする
 - ・レポートの提出日は必ず守ること
- 保健指導は対象者によって指導の内容が違うので、数学のように画一的な答えは出なく、すべての科目の内容を把握しないと、適切な指導はできません。全教科の集大成が歯科保健指導と考えて学習すること。

授 業 科 目 名	歯科診療補助法	実務経験
担 当 教 員 名	笹山 美香	歯科衛生士歴 27年
	嶋倉 里花	歯科衛生士歴 27年
	中村 里沙	歯科衛生士歴 24年
	橋本 幸子	歯科衛生士歴 49年
開 講 時 期	1年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義・実習	7単位 210時間

【授業の目的・到達目標】

授業目標

【前期】 歯科診療補助を行う際に必要な全般的な知識・技術を理解するにあたり、術者との共同動作や対面行為の実際について習得させる

【後期】 歯科診療補助に必要な基礎的技術のうち、各分野における処置別歯科診療補助法の実際として、器材のセッティング、処置の流れに沿った的確な介助法、処置後のメンテナンス器材の後始末について習得させる

【授業の進め方】

講義、実習

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ	歯科診療補助論
歯科衛生学シリーズ	歯科材料
歯科衛生学シリーズ	歯科機器
歯科衛生学シリーズ	保存修復学・歯内療法学
歯科衛生学シリーズ	口腔外科学・歯科麻酔学

【評価方法】

- 1、授業態度
 - 2、実技試験
 - 3、課題レポート
 - 4、定期試験
- 以上のものより、点数による絶対的評価とする

【授業心得】

予習復習は常に行うようにする
レポートの提出日は必ず守ること
実技に関しては常に訓練を怠らないこと

授 業 科 目 名	歯科材料学	実務経験
担 当 教 員 名	山口 一郎	歯科医師歴 31年
開 講 時 期	1年生	前期
授業形態・単位数・時間	講義	1単位 16時間（8回）

【授業の目的・到達目標】

歯科医療において、歯科材料を扱わないことはない。歯科衛生士として、歯科材料の基本的な知識、取り扱い方を学ぶ。

【授業の進め方】

スライドを用い、優しい質問をしながら、みんなで考えるような授業を進める。
 毎回、プリントを配布し、その説明を行う。
 ときどき、小テストを行い、知識の整理を行う。

【使用教本・教材】

歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論、歯科材料

【評価方法】

定期試験の点数による絶対的評価とする

【授業心得】

できるだけ興味を引くように授業を進めていくので、質問等は積極的にして欲しい。

授 業 科 目 名	歯科放射線学	実務経験
担 当 教 員 名	迫 健太郎	歯科医師歴 16年
開 講 時 期	1年生	前期・後期
授業形態・単位数・時間	講義	20時間(10回)

【授業の目的・到達目標】

様々な放射線がある中で主に、口腔領域の診断の際に必要な不可欠なエックス線(X-Ray)について、その発生から性質、撮影方法、エックス線写真となるまでの過程、生体への影響について学び、国家試験で問われる知識ならびに歯科衛生士として必要な知識を理解する。

【授業の進め方】

基本的事項を学んだ後、演習問題、小試験で知識を確認していく。
要所で指名し、質問に答えてもらう。

【使用教本・教材】

飯久保 正弘、犬童 寛子、香川 豊宏、河合 泰輔、後藤 真一：歯科衛生士テキスト
わかりやすい歯科放射線学、(株)学建書院、2022年、第3版
プリントを配布し、要点を整理していく。

【評価方法】

二等分法の原理の理解を重要視する。
定期試験の点数による絶対的評価とする。

【授業心得】

他の科目同様に臨んで欲しい。最低でも国家試験で問われる知識の習得を望む。

年間授業計画

科目名 歯科放射線学

回数	履修主題	履修内容
1	I. 放射線の基礎知識	どのようなエックス線写真となるかを考えながら、エックス線の性質・作用・物質との相互作用について学ぶ。
	II. 撮影用器材	エックス線写真を撮影する際に使用されるフィルムの規格、フィルムの構成、機材の構成、撮影機器の種類構造について学ぶ。
2	III. 口内法撮影補助	エックス線撮影の各種口内法撮影法、患者さんのポジション等について学ぶ。
	IV. 口外法撮影補助	エックス線の各種口外法撮影方法、器材の準備について学ぶ。
3	V. フィルムの現像・管理	撮影されたフィルムの手現像、自動現像、インスタント現像フィルムの整理等について学ぶ。
	VI. 放射線防護	I・放射線の基礎知識で学んだエックス線の性質を踏まえ、人体への影響を学び、悪影響を回避させるための原則を学ぶ。